

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第43週 (10月23～29日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	234	11816
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢	3	35
腸管出血性大腸菌感染症	101	3230
腸チフス		34
パラチフス		8
[4類]		
E型肝炎	4	457
A型肝炎	2	45
エキノкокクス症		12
エムボックス ¹⁾	5	209
オウム病		8
回帰熱		21
コクシジオイデス症		2
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群	2	127
チクングニア熱		6
つつが虫病	7	127
デング熱	4	130
日本紅斑熱	23	452
日本脳炎		4
ブルセラ症	1	2
マラリア	1	25
ライム病		29
レジオネラ症	40	1915
レプトスピラ症	3	41
[5類]		
アメーバ赤痢	4	408
ウイルス性肝炎 ²⁾	5	203
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	45	1698
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	50
急性脳炎 ⁵⁾	10	481
クリプトスポリジウム症		10
クロイツフェルト・ヤコブ病		128
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	19	699
後天性免疫不全症候群	9	771
ジアルジア症		35
侵襲性インフルエンザ菌感染症	10	461
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	14
侵襲性肺炎球菌感染症	37	1440
水痘(入院例に限る)	5	309
梅毒	188	12434
播種性クリプトкокクス症	2	141
破傷風	1	89
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	100
百日咳	15	806
風しん		11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		13

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	97292	19.68
新型コロナウイルス感染症	14125	2.86
RSウイルス感染症	238	0.08
咽頭結膜熱	7635	2.43
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9611	3.05
感染性胃腸炎	10488	3.33
水痘	317	0.10
手足口病	2697	0.86
伝染性紅斑	53	0.02
突発性発しん	681	0.22
ヘルパンギーナ	545	0.17
流行性耳下腺炎	109	0.03
急性出血性結膜炎	9	0.01
流行性角結膜炎	578	0.83
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	7	0.01
無菌性髄膜炎	18	0.04
マイコプラズマ肺炎	23	0.05
インフルエンザ(入院患者)	529	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1074	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	愛媛、埼玉、山梨
新型コロナウイルス感染症	▼	北海道、長野、山梨
RSウイルス感染症	▼	山形、北海道、長崎
咽頭結膜熱	▲	福岡、沖縄、佐賀
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、宮崎、埼玉
感染性胃腸炎	▲	大分、香川、福井
手足口病	▼	新潟、福井、佐賀
伝染性紅斑	▲	鹿児島、山形、静岡
ヘルパンギーナ	▼	高知、熊本、大分
流行性耳下腺炎	▼	宮城、千葉、鹿児島
マイコプラズマ肺炎	▼	青森、福井、富山、香川、奈良

◆A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

新型コロナウイルス感染症流行前の2019年までの感染症発生動向調査のデータでは、冬季および春から初夏にかけての2つの報告数のピークが認められていた。2020年春以降は大きな流行はなく推移していたが、2023年は第19週頃から3年ぶりの流行を認めた。